

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年1月25日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675300141
法人名	医療法人 健育会
事業所名	つどいの家
所在地	鹿児島県始良市鍋倉224番地1 (電話) 0995-66-3533
自己評価作成日	令和3年12月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年12月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・毎月努力目標を定め、申し送り時にホームの理念と共に唱和し、職員への意識付けを行っている。
- ・可能な限り「軒下から一歩外に」を目指し、外気浴や散歩等の支援を行い、精神面の安定を図っている。
- ・母体が医療法人の為、健康面においても連携がとれており、御家族にも安心していただいている。
- ・ホーム近くに保育園があり、子供たちの笑い声や元気よく遊ぶ姿等を身近に感ずる事が出来る。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は医療法人の運営であり、母体医療機関とは24時間の医療連携体制が築かれている。普段から定期的な往診や看護師の健康チェックが行われ、状況に応じて個別の往診も実施されており、家族の安心に繋がっている。
- ・コロナ禍で地域行事への参加は自粛し、保育園や近隣施設との交流も自粛している。住民から柿やゆずの差し入れがあったり、保育園児等とも散歩時に声掛けや挨拶を交わすなど、日常の中での交流は継続している。
- ・家族との面会や外出が制限されている中、コロナの状況に応じて家族との対面面会や馴染みの美容院の使用をしたり、少人数のドライブ実施等に柔軟に取り組んでいる。
- ・管理者は、職員の資格取得や研修受講を支援しており、研修後はミーティング時に復命する機会を設けて職員全体のレベルアップを図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ホール内に理念を掲示し、朝・夕の申し送り時に、毎月の目標と一緒に唱和し、全職員が共有・実践している。	理念はホールに掲示し、管理者と職員は唱和して理念を共有し実践に繋げており、毎月ミーティング時にケアの振り返りを行っている。理念はパンフレットにも掲載している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議に地域の方も参加していただき、情報を共有している。近隣の施設、保育園等とは、行事での参加でも交流を行い、災害時には協力ももらっている。	自治会に加入しているが、コロナ禍の為、地域行事への参加は控えている。保育園や近隣施設との交流も中止しているが、住民からの柿やゆずの差し入れはあり、散歩時等に挨拶を交わす程度の交流はしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議で認知症の方達の支援方法や現状を伝え、理解していただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者へは外部評価、研修等の報告を行い、委員の方々との関わりの中で、地域との繋がりを築いている。御家族にも会議に出席していただき、ご意見等があれば、委員と共にサービスを活かせるように検討している。	書面開催となり、ヒヤリハットを含めた状況報告等の資料及び意見記入用の返信封筒を同封して委員に送付している。返送された意見は次回資料に掲載すると共に、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に出席していただき、取組等を伝え、助言を頂いている。日頃から連携を取るよう努めている。	市の担当者とは電話での相談をこまめに行い、報告等に出向いて連携を密に取っている。実地指導時に事業所の取り組みを報告し、情報を得る機会となった。市のオンライン研修は積極的に受講している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会等で身体拘束について職員全体で学んでおり、身体拘束が様々な弊害をもたらす事を理解し、拘束しないケアに努めている。スタッフ間の声掛けの強化や見守りが出来る体制を作っている。	指針が有り、委員会を3ヶ月に1回、研修会は年2回以上実施している。スピーチロックは法人及び所内研修でも取り上げ、気付いた時にお互いに注意し合っている。玄関は施錠せず、外に出る素振りを察知したら散歩やドライブをして気分転換を図り、行動制限をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加や職場内での勉強会で虐待は生命・身体に重大な危険を生じる場合がある事を学び、防止に努めている。又言葉での虐待も行わない様に勉強会を開き、職員間でも気を付けるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会への参加や制度の活用が必要な方に対しては、社会福祉協議会や司法書士の方と相談し、必要に応じた支援が出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に説明を行い、特に退所に関する取り決めについては、不安や疑問点が無いように説明している。又改定や変更に際しては、文書にて説明し、同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族に運営推進会議に参加していただいたり、面会時の会話やカンファレンス等で要望や意見があれば聞くように努め、要望等があれば、すぐに検討し対応出来るように努めている。</p>	<p>利用者の要望は、日常会話や表情から読み取って対応している。家族には、電話や来訪時に状況報告と共に要望等を聞いており、家族からの希望で写真や動画を送付する等、その都度検討して対応している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ミーティング等で職員の意見を聞き、反映されるように心がけている。月1回の法人の全体会議で提案や意見の場を設けている。</p>	<p>管理者は、毎月ミーティング時に職員の意見を聞く機会を設けている。室内レクリエーションは実施前に話し合う、ケアの統一は試行した結果で判断する等、意見を反映して運営に当たっている。個別相談は管理者が対応している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者・管理者は職員との面談を行い、意見を聞き、反映できるように努めている。代表者・管理者は常に職員の勤務状態の把握に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の研修会の参加や新人研修・ホーム内勉強会の実施、研修報告を行い、全職員に伝わるようにしている。法人外での研修もオンライン等で参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区協議会に加入し、研修等で交流の場を持っている。地域の他施設の方と電話や交流会等で情報の交換等を行い、質の向上につなげている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネ等との連絡を密に行い、病院等に入院されている場合には、事前に面会に行き、状態・要望の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に連絡を取り合い、面談にてご家族の要望等の確認を行い、安心していただける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談・連絡は本人やご家族の思いを傾聴し、必要時には他のサービス機関への紹介、相談等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴・家族・本人の言葉から得意とする物を知る事で、役割を見出し、共に生活するものとしての関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や体調変化時に状態の報告、また遠方のご家族には本人の訴えや要望を電話連絡し、現状を把握していただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の家族、親戚には電話や便りで連絡を取っている。買い物で外出や美容室も馴染みの場所に行く等して支援を行っている。	コロナが落ち着いている時期は、美容院の利用や家族の対面での面会、少人数で馴染みの場所へのドライブも実施している。窓越し面会や電話の交流を支援し、お便りの送付で関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や生活歴を把握し、利用者同士が良い関係を築くように努めている。問題発生時やコミュニケーションが取りづらい方に対しては、職員が調整役となり配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所や入院となった方に対しては、面会に出向いたりし、退所時にはご家族にいつでも相談に来て良い事を伝えフォローしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	朝・夕の申し送り時には、利用者一人一人の状態を報告し、職員間で情報を共有している。日常生活の中で本人の思いを見出し、思いを言葉で表せない方には、表情等で察するように努めている。	日常会話の中で本人の思いを把握するように努めている。困難な場合は、表情や仕草、日頃の関わりの中で推測している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人やご家族から聞き得た生活歴や日常生活の会話の中から情報を拾い、その方らしい生活が出来るように支援している。情報提供や生活歴は職員がいつでも確認できる。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、言動や表情を観察し、ミーティング等で職員が情報を共有し、個々の能力・生活パターンの把握に努めている。家事動作等では、得意とする事や役割を見出し、ケアに結び付けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態に合わせてその都度本人やご家族の要望・意見を取り入れながら、主治医・看護師の意見を参考にミーティング等で話し合い、検討し介護計画を作成している。	玄関先で、担当者会議を家族と職員で実施し、ミーティング時に検討して介護計画を作成している。家族が参加できない場合は、事前に電話で希望等を確認している。モニタリングを毎月実施し、必要時は手直しを加えており、6ヶ月毎や状況変化時に計画を見直している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って個別での記録を行い、申し送り等で情報を共有している。又ミーティングでは個別の対応や気づきを話し合い、介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の生活の継続性とご家族の要望を踏まえて、通院介助・外泊・買い物等の支援、往診や医療連携を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署立ち合いでの災害訓練、近隣施設での行事（音楽会等）に出向き、地域の方々と触れ合う機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望するかかりつけ医の受診を支援し、協力病院を定め、適切な医療が受けられるように支援している。	契約時に確認し、全員が母体医療機関をかかりつけ医に希望している。週1回の定期往診及び週1回の訪問看護による健康管理を実施し、必要時の往診もある。他科受診は家族対応が基本であるが、コロナ禍の為に職員対応となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関から医療連携の訪問があり、入居者の状態全般において相談している。ノートを活用し、医療連携からの連絡事項を職員が把握できるようにしている。緊急時やその他の相談時にも連絡が取れる体制が作られている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には必要な情報提供を行い、医療機関との連携を密に取れる体制を作り、早期の退院や本人の混乱を少なく出来るように努めている。御家族とも連絡を取りながら、職員が面会に行き対応している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでい</p>	<p>本人・ご家族との話し合い、入居時に確認を行う等で意思確認を行っている。その都度状況をみながら、主治医を交えた話し合い等で確認を行っている。</p>	<p>契約時に重度化の場合の対応について説明し、同意書ももらっている。状況変化に応じて主治医及び家族と話し合い、家族の意向を確認している。家族の意向に沿って支援に取り組んでおり、常時医療が必要な状況になって入院になることが多い。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署に依頼し、救命救急の研修を行い、又急変時のマニュアルやホーム内での勉強会等を行う事で緊急時の対応が速やかに行えるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署立ち合いのもと、地域の方の協力を得ながら、昼夜を想定した避難訓練を定期的実施している。土砂災害の避難訓練も自主訓練を行っている。</p>	<p>年2回昼夜想定で避難訓練を実施している。コロナ禍の為消防署の立ち会いはなく、地域住民への協力依頼は中止している。近隣施設の避難受け入れも中止されているため、大雨の際は役場と協議の上で、母体医療機関のダイルームへ避難した。災害時の備蓄は、3日分の水、インスタント食品・缶詰・レトルト食品・カップ麺等の食料を確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助の声掛けは、声の大きさに気を付け、ポータブルトイレを居室に置く際には、布等でカバーを行い、見た目の配慮を行っている。	研修を実施し、さん付けでの呼びかけ、排泄介助時のさり気ない声かけやメモでの誘導等、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。羞恥心に配慮し入浴の同性介助や排泄介助時は戸を閉めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を尋ねる際には、自分で選択出来るような声掛けを行い、自己決定できるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活において、可能な限り無理強いをせず、一人一人のペースに合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に美容師の方に来て頂いており、行事等ではお化粧を好まれる方には行って頂き、楽しんでいただける様にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れた献立をたて、今の季節が感じられるように配慮し、簡単な調理等には参加していただいている。	献立は職員が作成し、個々に応じて刻み等の食べやすい形態で提供している。一緒に下ごしらえやテーブル拭きをしたり、あおし柿作りをしている。誕生日の好物や季節の行事食・出前の寿司・ハンバーガー等も提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量を記録し、少ない方には好みの物を提供し、少しでも摂取していただけるようにしている。一人一人の状態にあった食事形態等で提供できるように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア時には状態にあった介助を行い、口腔内の清潔が保持できるように努め、義歯は夜間に洗浄剤につけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、誘導や声掛けを行っている。失敗に対しては自尊心や羞恥心を考慮し、さりげなく援助出来るように努めている。	個々の排泄パターンに応じた声掛け・誘導を行って、日中はトイレでの排泄を基本に支援しており、リハビリパンツから布パンツへ改善した事例もある。夜間は、身体状況を考慮して、ポータブルトイレやオムツを使用する利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便確認を行い、便秘時にはDr・Nsと相談しながら便秘薬の調整を行っている。食事や運動でも改善が出来るように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は決まっているが、拒否や状態によってはその都度変更している。季節によって時間を変更したり、冬至等には柚子湯を楽しんで頂く等し、楽しんで入っていただける様に配慮している。	週2回午前を基本に入浴を支援し、体調不良時の清拭や足浴、必要時の2人介助や希望で同性介助も実施している。入浴剤の使用やゆず湯等で入浴をゆっくり楽しんでもらっている。嫌がる場合は、時間や人を変えて対応したり、日を変えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に応じて、入眠前の時間を過ごして頂き、寝具等も快適に休んで頂ける様に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬は、仕分け・管理を行い、処方の変更時には申し送り等で職員が把握できるようにしている。服薬担当を決め、飲み込みまでの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫や趣味などの野曾方の生活歴を活かし、その方にあった役割を見出している。又外出等では利用者と一緒にいきたい所を決め、気分転換になるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>散歩やドライブ等、出来る限り利用者の要望に応じている。ショッピング・お墓参り・自宅訪問等はご家族の協力を頂いている。</p>	<p>天気が良い日は外気浴や近隣の散歩をしている。コロナ禍で外出が制限されているが、少人数でドライブに出かけ、案山子やアジサイを見物したり車窓からの景色を眺めて気分転換を図っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族からお小遣いをお預かりし、買い物に出掛けた際には、本人に買いたい物を選んでいただいている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご家族の誕生日やお正月、その他利用者が要望した際には、その都度電話や手紙で連絡を行えるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が自分の力で過ごせるように、必要な場所には手すりを取り付けている。又季節ごとにホール内に掲示物を行い、季節を感じていただける様に配慮している。</p>	<p>ホールには季節の作品が飾られ、空気清浄機や加湿器・エアコンで適度な室内環境に調節され、換気も十分行っている。テーブルは距離を取って数ヶ所に配置し、ソファや和室等の好みの場所で利用者がくつろげるように工夫している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間がテレビを観たり、談話したりと、思い思いの時間が過ごせるような場所になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人の使い慣れた物を出来るだけ持って来ていただいている。入居後も必要に応じて声掛けしている。(テーブル・仏壇等)	居室には、ベッドやタンス・丸テーブル・椅子・エアコンが備えてある。本人の必要に応じて、テレビや加湿器・仏壇・寝具等を持ち込み、位牌や写真・ぬいぐるみ・鏡・時計等の身の回りの品々を置いて、落ち着いて過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は整理整頓に努め、要所に手すりを設置し、自立と安全面に配慮している。居室には分かりやすく名札を付けている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない